

# 令和6（2024）年度事業計画

公益財団法人 **神奈川芸術文化財団**

# I 第4期指定管理（令和3年度～令和7年度）における財団の運営方針

## 【財団の「理念」と3つの「視点」】

### 1 財団の「理念」

私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。

私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献します。

### 2 3つの「視点」（財団の「理念」に次の3つの視点を持って向きあっていきます。）

視点1「革新性」：革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、豊かで柔軟な社会を目指します。

視点2「国際性」：国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を發揮します。

視点3「多様性」：基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。

## 【財団の4つのミッション】（上記、「理念」のもとに定めた4つのミッション）

### 1 ミッション「創造に挑む」

- ・芸術文化の価値の追求
- ・多様な価値観や美意識、表現の自由に基づく作品の創造
- ・古典作品の再発見と伝統の継承
- ・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年法律第49号）（以下「劇場法」という。）が示す公共劇場のモデルを体現

### 2 ミッション「感動を分かち合う」

- ・自宅でも職場・学校でもない、人びとに開かれた「第3の場所」としての文化施設の実現
- ・豊かな芸術体験の提供、多様な芸術文化の紹介
- ・広域ネットワークの構築
- ・神奈川県内の地域文化の活性化と偏在の解消
- ・文化施設の維持・運営を通し、あらゆる人々の鑑賞や創造活動を支援

### 3 ミッション「つねに考える」

- ・新たな行動に結びつく公正で適正な評価と組織整備
- ・社会と芸術、時代の多面的な検証
- ・芸術文化の公共性や可能性の考察
- ・文化施設の公共性や可能性の考察

### 4 ミッション「未来につなぐ」

- ・芸術文化の担い手の育成
- ・次世代への継承
- ・創造性やコミュニケーション力を養う教育の拠点

## 【第4期指定管理における重点テーマと主な取組】

- 1 「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」  
各館それぞれの個性・特性をより強く打ち出した企画立案  
事業部長（音楽事業部長・演劇事業部長）の設置  
総合調整会議を設置（施設運営における水準の平準化と更なる向上）
- 2 「あらゆる人々へ開かれた場」  
「社会連携ポータル」部門（※）を令和3年度に立ち上げ  
利用者サービスのユニバーサルデザイン化の推進や、障がい者の鑑賞サポートの充実
- 3 「地域との連携」の強化～「繋<sup>つな</sup>がりの実現」  
「社会連携ポータル」部門（※）を令和3年度に立ち上げ  
県内巡回オペラの実施や、バックステージツアーの充実
- 4 「今後予測される厳しい財政環境への対応」  
専門性の高い職員を3館に共通する部門に配するなどの効率的な人員配置  
長期貸館の誘致などによる、利用料収入の確保

### ※ 「社会連携ポータル」部門とは

これまで、各館でそれぞれに取り組んできた

- ① 専門人材育成プログラム
- ② 学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）
- ③ あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ
- ④ 地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）

について、これまで培った知識や経験といった機能を「社会連携ポータル」部門に集約することで、その機能をより強化し、3館にとっても、また地域の文化施設や他の団体からも、社会と芸術をつなげる窓口＝ポータルとなるよう機能させていく。

また、社会連携ポータル部門では、様々な障がいのある方々、県内の在住外国人、貧困や社会的養育のもとにある子ども、高齢者（シニア）を重点的に取り組むべき対象とする。

## 【第4期指定管理における3館の役割と方向性】

### 1 神奈川県民ホール

#### ○担うべき役割

- ・神奈川県民ホール（以下「県民ホール」という。）の県内最大規模のキャパシティと多目的ホールの特性や良好な立地条件を生かしながら、主催・共催事業や貸館事業を通じて、県民の方々からの多様なニーズに応え、多彩で良質な芸術鑑賞の機会を提供すること。
- ・大ホール、小ホール、ギャラリー、会議室などを最適な環境で提供し、県民の方々の文化芸術活動の活性化に貢献すること。
- ・開館後45年を経過した老朽化の進行に適切に対応することで、今後も安全で安心感のある、良好な施設環境を維持し、県民の方々に提供していくこと。

#### ○取組の方向性

- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保し、高い利用率を維持する。
- ・近隣地域の劇場整備の進捗による利用需要の変化に柔軟に対応していく。
- ・ロビーや正面広場等を活用したにぎわいを創り出す。

### 2 KAAT 神奈川芸術劇場

#### ○担うべき役割

- ・KAAT 神奈川芸術劇場（以下「芸術劇場」という。）に対する県民の方々の多様な鑑賞ニーズに応え、かつ高度な舞台創造機能やリソース（人材、ノウハウなど）を生かしたラインナップの実現と、将来の舞台芸術を担う専門人材を育成していくこと。
- ・中・長期間公演による大きな収入を財源とした大規模な創作や上演を実現していくこと。
- ・劇場法に則った創造型劇場としての運営や、地域の拠点劇場のモデルを体現する先進事例への取組を続けていくこと。

#### ○取組の方向性

- ・収入の維持・向上のために、安定的なロングラン貸館の利用を確保していく。
- ・舞台技術に関する創造活動及び安全管理のノウハウを、3館全体に展開し共有する。
- ・NHK 横浜放送局とも連携し、アトリウムににぎわいを創り出すとともに、劇場施設自体の魅力を発信する取組を開始する。
- ・実演家・クリエイター・スタッフ等の創造性を養い、その成果を事業実施や企画立案に反映させる業務環境を作る。

### 3 神奈川県立音楽堂

#### ○担うべき役割

- ・神奈川県立音楽堂（以下「音楽堂」という。）の音楽ホールとしての歴史性を継承する、独自性の高い演奏会を実施すること。
- ・優れた音響特性や建物の魅力を生かすジャンルの選定（クラシック音楽の中でも室内楽や室内オペラなど。またモダニズム建築を生かせるパフォーマンスや現代的な演目など）。
- ・県民の方々が自ら行う文化活動のために、利用したくなる魅力を持つ「音楽ホール」であり続けること。

○取組の方向性

- ・音楽堂としての個性を大切に音楽事業を展開する。
- ・文化財的価値のある建築であり、同時に現役の音楽ホールとして稼働中の施設を保全していくノウハウを確立する。
- ・これまでと同様の高い利用率を維持しながら、施設の老朽化に適切に対応していく。
- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保する。



県民ホール



芸術劇場



音楽堂

※次頁以降の凡例（**公1**、**収1**、**収2**、及び**法人**）は、公益認定及び会計上の分類を示す。

◆公益目的事業

**公1** 芸術文化事業及びそのための施設運営に関する事業、芸術文化の情報収集提供、調査研究及び人材育成

◆収益事業

**収1** 駐車場の運営に関する事業

**収2** 大会、集会、会議等芸術文化以外の施設運営に関する事業

◆法人会計

**法人** 法人の運営に関すること

## II 令和6年度における財団の運営方針

財団は、先に掲げた理念を実現するため、4つのミッションを柱とした芸術文化事業及び施設運営・利用者サービス、本部事業・その他事業を展開し、多くの県民に上質で多彩な芸術文化プログラムを提供することによって、広く県域において創造性や活力が育まれることを目指していく。県民ホールは開館50周年、音楽堂は開館70周年と節目の年を迎え、これまでの実績をより明確に示していくとともに、芸術劇場を含む3施設において、引き続き県民が安心して芸術文化を享受できる環境を整え、神奈川の芸術文化の振興と創造・発信の役割を果たしていく。

### 1 芸術文化事業 公1

#### (1) 県民ホール

神奈川県民ホールは、昭和50年の開館当初から有数の大型文化施設・多目的ホールとして神奈川県の芸術文化振興を担ってきた。第4期指定管理期間でもその実績と使命を継承し、さらに財団の理念とミッションの方向性と軌を一にしながら、一柳慧芸術総監督と沼野雄司芸術参与の方針のもと、上質でバラエティ豊かな事業を展開してきたが、施設全体の老朽化により、令和7年4月より休館することが決定している。

令和6年度は、「開館50周年記念イヤー」の冠を掲げ、1年を通して、50年間の感謝と未来への思いを繋げる事業を展開しながら、クライマックスである令和7年のラストデイ（3月31日）に向かっていく。

具体的には、新しい総合芸術表現を追求・創作する「開館50周年記念オペラシリーズ」や、企画性の高い小ホールの室内楽公演、現代美術の企画展の創造発信に取り組むほか、大ホール2,400席の大空間と舞台機構を生かしたオーケストラ公演や海外ダンスカンパニーによる世界水準の舞踊公演、オルガン・アドバイザーの監修のもと実施する多彩なオルガン・コンサート、ホールを街にひらくオープンシアターや、県域でのアウトリーチ型公演、県民参加の美術展などの実施などを通じて、県民と感動を分かち合い、ホールの価値を高める事業を行う。年度最後の3日間は50周年ファイナル・イベントを実施し、多くの県民と共に再会を願うひと時を過ごす。

■ミッション「創造に挑む」 [3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
5月11日(土)	小ホール	「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」	小ホール事業の共通テーマ「C×」(シー・バイ)を体現するメイン企画。 「C」はComposer、Classic、Contemporaryを意味する。「C×C(シー・バイ・シー)」は、過去の著名な作曲家と現代の作曲家を引き合わせ、歴史的遺産を顧みつつ、未来へとつながる創造を模索する室内楽シリーズ。 令和6年度は、国際的に活躍する作曲家 酒井健治が、現代音楽の扉を開いた作曲家クロード・ドビュッシー(1862-1918年)と対峙する。
10月5日(土) 6日(日)	大ホール	開館50周年記念オペラシリーズ Vol. 2 シャリーノ作曲 オペラ『ローエングリン』 (新制作/日本語上演)	イタリアの作曲家サルヴァトーレ・シャリーノが1982-84年に作曲したモノオペラ(一人芝居)を日本語により新制作上演する。主演にはTV・映画で目覚ましい活躍を続ける俳優・橋本愛、演出は、カンヌ映画祭招聘作品の監督や米津玄師「Lemon」MVの振付・出演などで知られる吉開菜央。本作がオペラ演出デビューとなる。指揮に、イタリアを拠点に活躍する杉山洋一を迎える。
12月15日(日)～ 令和7年 1月25日(土)	ギャラリー	企画展「眠れよい子よ /よい子の眠るところ」	県民ホールギャラリーの独特な空間を活かし、同時代の美術を紹介する企画展。「場」「よい子」「眠る」という3つのキーワードをコンセプトとしたグループ展を開催する。

■ミッション「感動を分かち合う」[7事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
<b>C×Organ オルガン・コンサート・シリーズ</b>			
4月26日(金) 8月30日(金) 10月25日(金) 令和7年 1月17日(金)	小ホール	プロムナード・コンサート	小ホール事業の共通テーマ「C×」に沿って、オルガン・アドバイザー中田恵子の監修により実施する「C×Organ (シー・バイ・オルガン)」シリーズ。オルガン音楽の普及を図る「プロムナード・コンサート」、古典から現代までオルガン音楽の魅力を追求める「リサイタル」、年末の風物詩的演奏会「クリスマス」の3ジャンルに加え、オルガン・アドバイザーが他ジャンルのアーティストと共演しオルガンの新たな魅力を紹介する「オルガン avec シリーズ」を実施する。
11月16日(土)		中田恵子 オルガンリサイタル	
12月8日(日)		鈴木雅明 クリスマスコンサート	
令和7年 2月8日(土)		オルガン avec シリーズ	
<b>オープンシアター2024</b>			
6月1日(土)	大ホール	スターダンサーズ・バレエ団 リラックスパフォーマンス『くるみ割り人形』(お話付き)	年齢、国籍、障がい等に関わらず、地域に暮らすあらゆる人々にホールや芸術に親しんでもらうことを目指し、音楽・舞踊・美術など多彩な企画をホール内各所で同時開催する。社会連携ポータル部門や関係団体等と連携し、鑑賞サポートの充実を図る。 大ホールでは、バレエのリラックスパフォーマンスを神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏により上演し、公演の前後にバックステージツアー等の関連企画を実施する。小ホールではオルガン・コンサートとオルガン見学を、ギャラリーでは展覧会や関連ワークショップを行う。その他、屋外テラス(雨天の場合は共通ロビー)で無料コンサートや、大ホールロビーで「ともいきアート展」出品団体によるアート作品展示、絵本の読み聞かせを実施する。
	小ホール	オルガン・コンサート(オルガン見学付き)	
	ギャラリー 第1展示室	展覧会・ワークショップ	



7月5日(金) 6日(土)	大ホール	NDT Japan Tour 2024 神奈川公演	オランダを拠点とするネザーランド・ダンス・シアターの5年ぶりの来日公演として、気鋭の振付家によるレパートリー作品を上演する。Dance Base Yokohama との共同主催。
12月29日(日)	大ホール	ファンタスティック・ガラコンサート2024	オペラ、バレエ、オーケストラの名曲、名シーンで構成する年末恒例のガラコンサート。指揮に三ツ橋敬子、管弦楽に神奈川フィルハーモニー管弦楽団を迎える。
令和7年 3月22日(土) 23日(日)	小ホール	C×Baroque 「大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol. 4」	小ホール事業の共通テーマ「C×」に沿って、バロック音楽の第一人者である大塚直哉(チェンバロ)の出演・監修のもとバロック音楽の魅力を紹介する「C×Baroque(シー・バイ・バロック)」。令和6年度は、J. S. バッハの「クラヴィーア練習曲」第1巻から第3巻まで、2日に渡り演奏する。2日目の公演では、オルガン・アドバイザーが共演する。
令和7年 3月29日(土) 30日(日) 31日(月)	複数施設	県民ホール開館50周年 ファイナル	休館直前の最後の3日間に、多くの県民と共に感謝と再会を願うひと時を過ごす。 大ホールではオープンホール等のイベントを、小ホールではオルガンを中心とした企画を実施。緑の深いオルガニストたちの演奏やここで生まれたオルガン曲の披露、県民がオルガンにさわられる体験等を予定。ギャラリーでは展覧会「META」(共催)の開催を予定している。(調整中)
12月25日(水) (他、調整中)	鎌倉芸術館 小ホール (他、調整中)	県域巡回事業	県域の芸術文化振興を目的として、音楽・舞踊などの親子向け企画を、地域の文化施設等と連携して実施する。 ダンス劇『マリーの夢』 (他、調整中)

【共催事業】 [1事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
年3回	大ホール	神奈川フィルハーモニー管弦楽団演奏会	定期演奏会などを共催で実施。
通年	大ホール 他	共催公演 (英国ロイヤル・オペラ、ジョージア国立バレエ、松山バレエ団、神奈川県芸術舞踊協会、日本バレエ協会、アトリエヨシノ 他)	国内外の優れたオペラ公演、クラシック音楽、舞踊、現代美術展等を共催公演として招聘し県民に鑑賞機会を提供するほか、県民の自主的な芸術活動を支援する発表の場を提供する。
①5月23日(木) ～6月1日(土) ②令和7年 3月20日(木祝) ～3月31日(月)	ギャラリー	①日本現代工芸美術展 ②META展	①国内の優れた現代工芸美術を紹介する全国公募展の神奈川巡回展。 ②革新的な美術表現の境地を切り開くグループ展。県民ホールギャラリーのファイナルイベントとして、歴代の作家をゲストに迎え、展覧会・トーク、パフォーマンスなどのイベントを開催。

■ミッション「つねに考える」 [1事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
①8月17日(土) ②調整中	①小ホール ②小ホール 又は会議室	舞台芸術講座 ①青島広志の名曲レクチャーコンサート ②開館50周年記念オペラシリーズ vol. 2 『ローエングリン』 関連企画  <社会連携ポータル事業>	舞台芸術への扉を開く講座シリーズ。社会連携ポータル部門と協働し、広い観点から音楽芸術等への理解と共感を深める企画を実施する。 ①名曲レクチャーコンサート 講師：青島広志 ②開館50周年記念オペラシリーズ vol. 2 『ローエングリン』 関連企画
5月11日(土)	小ホール	「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」	(再掲)

■ミッション「未来につなぐ」[3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
9月4日(水) ～9月15日(日)	ギャラリー	第59回 神奈川県美術展	昭和40年の創設以来、新人作家の育成と美術文化の向上に努めてきた、国内有数の規模を誇る美術公募展を、県及び財団が参画する実行委員会が主催して開催する。
8月4日(日)	大ホール	横浜バレエフェスティバル2024	世界で活躍する日本人ダンサーを招聘し、クラシックからコンテンポラリーまで幅広いプログラムを上演する。共催。
調整中	未定	県民ホール人材育成事業 <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータル部門と協働し、県内の文化施設職員等を対象にした劇場運営マネジメント講座、インターンシッププログラムを実施する。 インターンシッププログラムは、事業制作に加え、施設運営も取り入れた公立文化施設であることをいかした内容とする。 その他、大学と連携した人材育成プログラム等も実施する。

## (2) 芸術劇場

芸術監督・長塚圭史のもと、年間を通じたプログラムや劇場広報を通じて、高い芸術性を担保しながら、専門人材、劇場設備・機構、劇場間ネットワーク、外部資金等のリソースを活用し、それらを積極的に育成・展開・活用する企画を立て、安定した事業運営を目指す。

前年度に引き続き、劇場・財団のミッションを踏まえた多様なプログラムを提供する枠組みとして、4月～8月を「プレシーズン」、9月～3月を「メインシーズン」として2つに分け、活動にリズム感を持たせ、より県民に親しまれる劇場を目指す。

4月～8月の「プレシーズン」は、ひらかれた劇場として県民の方々とつながることを目指し、舞台に触れることの少ない方々に、劇場の存在を知っていただき、また観客となる体験を提供することを主眼として企画していく。

9月～3月の「メインシーズン」には、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現しながら、芸術監督演出作品をはじめ、そのテーマから想起される多彩な作品をプログラムする。

令和6年度は、『某(なにがし)』をシーズンタイトルとして、多様な価値観、美意識、そして舞台芸術の悦びを県民に提供していく。

---

### 『某(なにがし)』

我々個人は大小さまざまな社会の一部を担っています。しかしその社会という大きなレンズを通してそれぞれ個人に目を向けた時、その存在を軽んじられてしまったり、一括りにまとめられてしまったり、抹消されてしまうことさえあります。それは社会にとって取るに足らない、あるいは不都合な個人だからでしょうか。反対に個々人自らが社会の中でその存在を眩ましてしまうこともあります。自己防衛のため、あるいは反社会的動機、現在では匿名性を纏うことで雄弁になるということもあるのかもしれませんが。誰でもない誰かになって仮想社会を歩き回ることも可能になった現代の中で、自己と他者の在り方も日々更新され続けています。そして当然そうした個人を内包する社会が問われます。

2024(令和6)年度のKAAT 神奈川芸術劇場のシーズンタイトルは「某」と書いて「なにがし」。私でありあなたでもあるかもしれない某、意志を持ってあるいは意志なくして正体を無くした某、また大きな思想や金儲けのために生み出される某、そして今日も一日働いて誰に褒められることもなく社会を支えている某。

「某」のレンズを通すと、果たして何が見えてくるのでしょうか。

プレシーズン

5-6月	中スタジオ	「ライカムで待っとく」作：兼島拓也 演出：田中麻衣子
7月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2024「ペック」演出：アンディ・マンリー
7月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2024「らんぼうものめ」 作・演出：加藤拓也

メインシーズン ～シーズンタイトル『某（なにがし）』

9-10月	ホール	「リア王の悲劇」 作：シェイクスピア 翻訳：河合祥一郎 演出：藤田俊太郎
9-10月	中スタジオ	KAAT EXHIBITION 2024 南条嘉毅展「地中の渦」
10月	ホール	KAAT×山田うん×池上高志「まだここ通ってない」(仮)
11-12月	大スタジオ	日英共同制作 KAAT × Vanishing Point 「品川猿の告白」原作：村上春樹 演出：マシュー・レントン
12月	複数施設	YPAM
12月	大スタジオ	KAAT×ケダゴロ×韓国国立現代舞踊団 国際共同制作 「黙れ、子宮」(仮) 振付・演出・構成：下島礼紗
2月	ホール	KAAT×新ロイヤル大衆舎 vol.2「花と龍」 原作：火野葦平 上演台本：齋藤雅文 演出：長塚圭史
2-3月	中スタジオ	新作戯曲委嘱演劇作品 作：山本卓卓 演出：益山貴司

■ ミッション「創造に挑む」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
9月中旬～ 10月上旬	ホール内特 設会場	「リア王の悲劇」	(メインシーズン) 時代を超えて愛されるシェイクスピアの4大悲劇の1つに、気鋭の演出家：藤田俊太郎が挑戦する。リアの存在、生き様を通して、古い、寛容、分断、支配、ルーツ、ジェンダー、愛など、現代の間うべきテーマを多義的に豊かに表現することを目指し、『某（なにがし）』シーズンの開幕を飾る作品として、全く新しい価値観も持った「リア王の悲劇」を創作する。
9月中旬 ～10月上旬	中スタジオ	KAAT EXHIBITION 2024 「南条嘉毅展」	(メインシーズン) 平成28年から毎年開催している劇場空間と現代美術の融合による新しい表現を生み出す展覧会 KAAT EXHIBITION。令和6年度は、その土地の歴史や環境へのリサーチや考察に基づいて雄弁なインスタレーション

			を展開する南条嘉毅を迎える。先史時代から、開港、文明開化、現代に至る横浜の歴史や人々の暮らしの痕跡から、そこに生きた『某（なにがし）』を感じる、複層的な空間を創り出す。
11月下旬 ～12月上旬	大スタジオ	日英共同制作 KAAT × Vanishing Point 「品川猿の告白」	(メインシーズン) KAAT 神奈川芸術劇場と英国のカンパニー Vanishing Point との国際共同制作作品。村上春樹の短編「品川猿」「品川猿の告白」を原作として、日英混合のキャスト・スタッフで臨む。令和4年度のカイハツのひとつとして行ったワークショップからスタートし、長い時間をかけて創作に取り組んでいる。言葉の話す猿を巡る物語を多言語で上演する試みは、『某（なにがし）』すなわち人の有り様に、光を当てる作品となることを目論む。YPAM と時期を重ね、YPAM における演劇の持つ力、批評性の表出に貢献することも目指す。横浜での世界初演後、カンパニーの主導により、英国ツアーを予定している。
2月	ホール	KAAT×新ロイヤル 大衆舎 vol.2 「花と龍」	(メインシーズン) 長塚芸術監督演出作品。火野葦平の大河小説「花と龍」を原作に、長塚の主催する演劇ユニット、新ロイヤル大衆舎との共同製作として上演する。 この原作は、明治から戦後の激動を波瀾万丈に生きながら、自らを世のために生きる市井の一人と言い切る主人公とその妻を描いており、芸術監督自らが『某（なにがし）』に挑む作品となる。ホールの使い方にも工夫を凝らし、演劇の悦びを届ける作品としたい。原作の舞台となった北九州での上演を含むツアー公演を予定している。
2月～3月	中スタジオ	新作戯曲委嘱 演劇作品	(メインシーズン) 次代を担う劇作家として注目される山本卓卓が『某（なにがし）』をキーワードに新作を書き下ろす。継続して取り組んでいる、新作戯曲書き下ろし作品により清新に現代を描出することを目指す取り組みである。小空間ならではの舞台表現に挑む。

■ミッション「感動を分かち合う」[4事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
7月上旬	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2024 「ペック」	(プレシーズン) ロームシアター京都など、全国の公共劇場と共同で優れた舞台作品を海外から招聘する。令和元年に招聘し、多くの子ども達に楽しんでいただいたスコットランドのアーティスト、アンディ・マンリーによる新作を紹介する。
7月中旬～ 7月下旬	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2024 「らんぼうものめ」	(プレシーズン) おとなも子どもも楽しめるKAATキッズ・プログラムの新作として創作する。 作・演出に、昨年度岸田戯曲賞を受賞するなど近年その旺盛な活動が高い評価を獲得している劇作家・演出家の加藤拓也を迎え、太陽が失われた世界で、らんぼうものの子どもが、田舎で自然の神様に会い、痛みや親子の絆に気付いていくファンタジーを描く。ツアー公演を予定している。
通年	アトリウム 他	フレンドシッププログラム	年間を通じて、街の一部である劇場、街に飛び出す劇場、またあらゆる人々に開かれた劇場を目指し、演劇・音楽・ダンス・現代美術・トークイベントなど多様な催しを、アトリウムを活用し開催する。また、劇場を身近に感じいただき、劇場の魅力を知っていただくために、定期的にバックステージツアーを開催する。
通年	複数施設	提携事業	KAAT の劇場イメージを向上させる上質な演目や集客力で地域の賑わいを創り出す演目を提携公演として誘致し、主催公演とあわせてKAAT 全体の公演ラインナップを充実させる。 4月 県演連 5月 Baobab 「DANCE×Scrum!!! 2024」 6月 CCreation 「白蟻」 KUNIO 「Title 未定」 8月 県演連 9月 横浜夢座「ヨコハマの夜明け富貴楼お倉の物語」 1月 た組「ドードーが落下する」 Co. 山田うん新作 (令和6年2月時点)

■ミッション「つねに考える」[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
10月	ホール内特設会場	KAAT×山田うん×池上高志「まだここ通ってない」(仮)	(メインシーズン) 振付家山田うんが、複雑系の研究者である池上高志と続けているプロジェクトの発展深化版を創作上演する。池上高志のテーマは、「人工生命(=原初的なロボットやドローン)の群れが、集団としての生命性・生態系を創り出すのではないか」ということ。身体表現を行うダンサーたちと人工生命との共生、あるいは身体を持たないAIとの会話などを通して、ラベルを貼られていないむき出しの「生き物」あるいは「ひと」の存在、その匿名性を浮かび上がらせる試み。また、つねに戦争・兵器開発に結びついてきたテクノロジーの別の側面(サイエンス=アート)をみつけ、どうやってAIと人間のアライメント(共存)をつくるのかを考える企画でもある。ホール舞台上に、ステージオンステージの会場をつくり上演する。
12月上旬～中旬	ホール、大スタジオ他	「YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング 2024」	(メインシーズン) 国内唯一かつアジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームとして国際的に認知されてきた「YPAM-横浜国際舞台芸術ミーティング」は、国際的芸術交流の深化、発展とともに、地域との結びつきを深めていくことを目指している。KAATは令和6年度も公演プログラムの主会場として劇場各施設を最大限に活用し、多様な作品の上演を行う。
通年	複数施設	「カイハツ」	必ずしも上演を目的とせずに様々な創作の可能性を探る場を、演出家・振付家・俳優・ダンサーたちに提供する。数多くのアーティストが出入りし、劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指す。 また、国内外の戯曲の発掘、情報収集も継続的に行い、今後の企画立案に繋げていく作品のディベロップメント事業としても位置づける。



■ミッション「未来につなぐ」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
5月24日(金) ～6月2日(日)	中スタジオ	「ライカムで待つとく」	(プレシーズン) アメリカ統治下の沖縄普天間で起きた米兵殺傷事件とその裁判について書かれたノンフィクションを題材に創作し、令和4年度に初演、高い評価を得た作品を再演する。過去の作品を劇場の財産として、より多くの県民に鑑賞機会を提供出来るようリクリエーションしていく取組である。また、現代日本における沖縄の存在を多様な視点で描いた本作を、沖縄ほか各地で上演する。
12月	大スタジオ	KAAT×ケダゴロ×韓国国立現代舞踊団 国際共同制作 「黙れ、子宮」(仮)	(メインシーズン) 次世代のコンテンポラリーダンス・カンパニーとして注目を集めるケダゴロの下島礼紗が、令和3年にソウルで韓国国立現代舞踊団に委嘱され制作した作品「黙れ、子宮」のリクリエーション作品を上演する。家族という規範の解体や分断、あるいは家族という規範から抜け出さざるを得ない個を描く。韓国国立現代舞踊団との共同制作、日韓のアーティストの協働となる。 次世代の作り手の育成と新たな創作のネットワーク構築に挑む取組。
<b>KAAT 人材育成事業</b>			
年2回	調整中	インターンシップ ＜社会連携ポータル事業＞	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営、または舞台技術の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供する。劇場運営と技術の2コースで開催する。
年2回予定	調整中	舞台技術講座 ＜社会連携ポータル事業＞	プロフェッショナルとして活動している舞台技術者が、専門分野を超えて視野を広げ、スキルアップする講座を実施する。

通年	調整中	リラックスパフォーマンスを考える ＜社会連携ポータル事業＞	令和5年度から3年計画でリラックスパフォーマンス（またはインクルーシブシアターともいう）の作品制作を目標とし、その2年目として、具体的な実施に向け、アーティストも交え、検討や試行をおこなう。
通年	調整中	KAAT 教育普及事業 教育機関連携 ＜社会連携ポータル事業＞	大学及び県立高校の専門科との連携事業を重点に行う。 大学連携は、大学や研究者と連携し、文化施設の新しいあり方、芸術文化を将来へつなぐ研究を協働、または提言していくための講座を開催する。 高校との連携は、県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の教育課程に合わせた講座を開催する。
通年	複数施設	「カイハツ」	(再掲)

### (3) 音楽堂

- ・令和6年度は開館70周年を迎える。これを機に、オリジナリティと上質性を兼ね備えたラインナップを用意し、同時に若い世代や地域にむけ、新しいジャンルの音楽、他ジャンルの芸術との協働も含めた発信に努め、室内楽ホールとしてのブランドの向上につなげていく。
- ・フラグシップとなる「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」ではオペラ黎明期の音楽の蘇演では国内随一を誇る、濱田芳通主宰アントネッロによる初期バロックオペラの新演出上演を、兵庫県立芸術文化センターとの協働で実施する。同時に関連する教育普及プログラムを地域の施設等と連携して実施する。もう一つのフラグシップ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では、トップアーティスト同士のカップリングによる独自企画を主催で実現するほか、発信力のある共催公演を積極的に誘致し、音楽堂の音響と歴史性を活かし、世界レベルの音楽体験を提供する。
- ・地域の人々に向けてホールを開き、次世代を呼び込むことをめざす「子どもと大人の音楽堂」では、多言語・多文化家庭の子どもたちを主な対象とした〈子ども編〉と、30代前後の若い感性で音楽堂全体を楽しむ企画〈大人編〉を開催する。
- ・従来の表現・思考のスタイルにとらわれない新しい表現を紹介するシリーズ「新しい視点」では公募プログラム〈紅葉坂プロジェクト〉の発表公演と、次年度に向けた公募・審査等を実施し、創造に挑みつづける場としての音楽堂をアピールしていく。
- ・その他県民参加の「メサイア全曲演奏会」、また「先生のためのアウトリーチ」、「インターシップ」、「紅葉ヶ丘まいらん」等の取り組みで、次世代の人材育成や、地域に開かれ、音楽文化の振興をはかる公共ホールとしての役割を追求する。

#### ■開館70周年記念プロジェクト

年度全体を「開館70周年記念イヤー」とし、記念ロゴを作成、全ての主催事業に「開館70周年」を冠すると共に、グッズ制作、70年間の豊富なアーカイブデータの整理（着手）、その他、音楽堂の歴史や魅力を改めて発信する記念企画に取り組む。

特に、開館記念日を含む5日間（10月31日（木）～11月4日（月休））を軸に、コンサート、展示、イベント等を開催。記念誌等の刊行物は、令和6年度に編集をはじめ、令和7年度に発行。アーカイブデータについては、50周年を機に一部デジタル化されたデータの再整理に着手し、令和8年度以降の公表等をめざしていく。

県立図書館（開館70周年）、青少年センター、横浜市民ギャラリー（開館60周年）、横浜能楽堂らとの協働アクション「紅葉ヶ丘まいらん」では、市民ギャラリーが幹事館となる県民向け公開連続講座「紅葉ヶ丘大学（仮称）」に参画するなど、引き続き連携していく。

<p>10月31日(木) ～11月4日(月休) 他、年間</p>	<p>音楽堂</p>	<p>開館70周年記念プロジェクト</p>	<p>記念日を含む5日間を、音楽堂の音響を活かした「記念特別公演」(出演:吉野直子(Hp)、上野星矢(F1)、小林道夫、大塚直哉(Cemb)、神田佳子(Pc)、神尾真由子(Vn)ほか)、アーカイブデータを活かした記念展、その他、建築見学会や県民が気軽に参加できるイベントで構成し、70周年を県民・聴衆と共に祝う。また、年間にわたり、記念誌編集、アーカイブデータ整理等に取り組んで行く。</p>
--	------------	-----------------------	--

■ミッション「創造に挑む」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
<p>音楽堂室内オペラ・プロジェクト [開館70周年記念]</p>			
<p>令和7年 2月22日(土) 23日(日祝)</p>	<p>音楽堂</p>	<p>濱田芳通指揮 アントネッロ 新演出版バロックオペラ モンテヴェルディ 『オルフェオ』 (全5幕、イタリア語上演日本語字幕付き)(予定題)</p>	<p>優れた室内楽ホールとしての音響特性とブランドイメージを打ち出すフラグシップ企画としてバロックから現代まで様々な作品を紹介するシリーズ。 バロック以前の音楽を、現代のジャズやロックにも通じる革新的音楽思考で捉えなおし、近年高く評価される濱田芳通率いるアントネッロによるオペラ上演。兵庫県立芸術文化センターと連携して実施。 『オルフェオ』は、平成27年濱田が音楽堂で初めて発表した全幕オペラだが、今回はその後の濱田の研究成果を活かし、オペラ黎明期のルネサンス的解釈からバロック様式を見直し、即興性と「語りと歌い」の新しい表現に新境地を見せる。 演出:中村敬一 管弦楽:アントネッロ 指揮・コルネット:濱田芳通 装置:増田寿子 衣裳:下斗米雪子 照明:矢口雅敏 音響:小野隆浩 ほか 出演:坂本忠弘(Br) 中山美紀(Sop) 彌勒忠史(Ct) ほか</p>

<p>①11月16日(土) ②令和7年1月9日(木) ③日程調整中</p>	<p>①ひらしん平塚芸術文化ホール ②杜のホールはしもと ③昭和音楽大学</p>	<p>①400年前の音楽に 出会おう！ ②オペラ『オルフェオ』とバロック期の劇場を読み解く ③昭和音楽大学公開授業「モンテヴェルディを含む初期バロックの歌唱様式」(予定題)</p>	<p>関連企画として、地域の団体と連携し、教育普及的な3企画を行う。 ①ホールのオープンデー企画の一環としてアントネッロのメンバーが行う小・中学生対象のリコーダーワークショップ。 ②『オルフェオ』の台本などを用い、当時の劇場の雰囲気を感じながらバロックオペラの演出を読み解くワークショップ(一般対象)。講師：中村敬一、中山美紀(Sop)、上羽剛史(通奏低音) ③昭和音楽大学声楽科の学生を対象とする講座(同大学公開授業として一般も聴講可)。講師：濱田芳通、歌手、通奏低音奏者</p>
---	--	--	---

シリーズ「新しい視点」[開館70周年記念]

<p>①7月20日(土) ②8～11月公募/審査/ 令和7年3月8日(土) ワークインプログ レス</p>	<p>音楽堂</p>	<p>&lt;公募プログラム&gt; 紅葉坂プロジェクト</p>	<p>①令和5年度に公募し、沼野芸術参与を委員長とする審査会で採択した団体約2組によるコンサート(Vol.3)の実施。 企画委員：湯山玲子、濱田芳通 ②令和7年度にコンサート(Vol.4)を行う団体2組の公募・審査・採択・ワークインプログレスの実施。企画委員：調整中</p>
---	------------	--------------------------------------	---

■ミッション「感動を分かち合う」[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
<p>音楽堂ヘリテージ・コンサート[開館70周年記念]</p>			
<p>※「出会いと響きの70年」などテーマを設けて展開 ※共催と合わせセット券を発売しシリーズ展開 ※関連企画としてプレレクチャー「街なかトークカフェ」を年2回ほど開催</p>			
<p>9月14日(土)</p>	<p>音楽堂</p>	<p>2台ピアノのリサイタル「2人のアマラン」</p>	<p>いずれもカナダ出身で超人的なテクニックと広いレパートリーで知られる名ピアニスト、マルク＝アンドレ・アマランとシャルル＝リシャール・アマランの2名の顔合わせによる、音楽堂独自プログラム。</p>
<p>12月8日(日)</p>	<p>音楽堂</p>	<p>スティーヴン・イッサーリス・チェロ・リサイタル</p>	<p>令和4年のリサイタルで大好評を博したイギリス出身の世界的チェリストと名タッグを組むピアニスト、コニー・シーが再来。</p>

令和7年 3月29日(土)	音楽堂	ベルチャ弦楽四重奏 団×エバーヌ弦楽四 重奏団「2つの弦楽 四重奏団」	次世代を代表する実力派カルテットとして世界を股にかけ活躍する2つの団体が日本で顔合わせする独自企画。メンデルスゾーンとエネスクによる弦楽八重奏曲というめったに聴く機会のない名曲等を最高の演奏で聴かせる、室内楽ファン垂涎の公演。
------------------	-----	--	---

【共催事業】 [4事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
<b>音楽堂ヘリテージ・コンサート (共催)</b> ※主催事業と合わせてシリーズの一環としてセット券発売、広報などを実施する			
11月27日(水) ※合唱ワークショップ 11月28日(木) ※公演	音楽堂	ベルリンRIAS室内合唱団	ヒンデミット、ブーレーズ、ヘンツェら名だたる作曲家から作品を献呈される世界的合唱団が、音楽堂の音響を活かしたアカペラコンサートと、前日の合唱ワークショップを開催。 [主催：オフィス山根]
<b>ホリデー・アフタヌーン・コンサート</b>			
①4月21日(日) ②5月26日(日) ③6月16日(日) ④7月13日(土) ⑤9月28日(土) ⑥10月20日(日) ⑦11月17日(日) ⑧12月1日(日) 令和7年 ⑨1月13日(月祝) ⑩3月(調整中)	音楽堂		若手日本人中心の人気・実力ともに優れた演奏家による休日昼間のコンサートシリーズ [主催：神奈川芸術協会] ①石田泰尚&山本裕康デュオ ②葵トリオ ③神尾真由子 無伴奏ヴァイオリン ④辻彩奈&阪田知樹デュオ ⑤山根一仁&阪田知樹デュオ ⑥小林海都 ピアノ ⑦及川浩二 ピアノ ⑧ジャン＝ギアン・ケラス 無伴奏チェロ ⑨石田泰尚&松田弦デュオ ⑩出演者調整中
<b>MUSIC DAY 2024 in KANAGAWA</b>			
①5月31日(金) ②9月21日(土)	音楽堂	①ポートレート・オブ・イリヤン・チャン	日本を代表する打楽器奏者、加藤訓子がプロデュース・出演する公演。現代作曲家に焦点を当て、クロスオーバージャンルで展開するミニ音楽祭。年2回、2

		<p>②メタ・クセナキス</p>	<p>年連続で実施する。          ①イリヤン・チャン（韓国）作品展。篠崎靖男指揮アンサンブル・ノマドほか          ②ヤニス・クセナキス作品展。中村恩恵（ダンス）、中所宣夫（能舞）ほか若手打楽器奏者出演。          [主催：特定非営利活動法人 芸術文化ワークス]</p>
<p>その他共催</p>			
<p>①5月18日（土）          7月6日（土）          令和7年          1月11日（土）          ②4月29日（月祝）          5月19日（日）          ③6月8日（土）          9日（日）22日（土）          23日（日）          ④8月31日（土）          9月29日（日）          ⑤10月1日（火）          ～4日（金）          ⑥11月21日（木）          ～24日（日）          ⑦11月30日（土）          令和7年          ⑧1月22日（水）          ⑨2月11日（日祝）</p>	<p>音楽堂</p>	<p>①神奈川県フィルハーモニー管弦楽団音楽堂シリーズ「Classic Modern」（全3回）          ②かながわ音楽コンクール（ユースピアノ部門／ヴァイオリン部門）          ③神奈川県合唱祭          ④神奈川オペラフェスティバル          オペラ「不思議の国のアリス」          「オペラ・ガラ・コンサート」          ⑤音楽堂おかあさんコーラス          ⑥横浜コンペティション          ⑦神奈川県名流三曲祭          ⑧団地コーラス発表会          ⑨神奈川県合唱フェスティバル</p>	<p>県域で活動する音楽団体による音楽祭、シリーズ公演、コンクール等で、県民や愛好者に鑑賞、活動、研鑽の機会を提供する。また県の施策に資する共催公演を実施する。</p>

■ミッション「つねに考える」[1事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
適宜各公演前に実施 通年2～3回 (日程調整中)	音楽堂他	街なかトークカフェ ／室内オペラ・プロジェクト関連プログラム(再掲)	音楽堂ヘリテージ・コンサート及び音楽堂室内オペラ・プロジェクトの公演に先立つ関連企画として、プログラムの背景や意義、聴きどころなど知識を深めると共に、講師と、また参加者同士の対話や交流の場となることをめざす。

■ミッション「未来につなぐ」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
8月3日(土)	音楽堂	子どもと大人の音楽堂 <子ども編> せかいはともだち!	前年度に引き続き、音楽堂全館を使って、コンサートやホワイエイベント、建築見学、ワークショップなど多彩な体験をする親子イベント。社会連携ポータル部門と協働し、特に多文化共生に重点をおきながら、インクルーシブ視点を取り入れ開催。
10月12日(土)		子どもと大人の音楽堂 <大人編> 音楽堂のピクニック	ファミリー層はもちろん、20・30・40代を中心に全世代にわたる「大人の休日」をテーマとするカルチャーイベント。音楽堂全館で音楽、トーク、ピクニック、建築見学などを体験。令和5年度からの延期を経て1年半ぶりに開催する。
12月15日(日)	音楽堂	第57回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」 全曲演奏会	県民が参加する合唱団と神奈川フィルハーモニー管弦楽団による公演。指揮者に大塚直哉を迎え、刷新されたイメージで行う3年目。高校生による「未来プロジェクト」も継続する。
通年	県内各会場 (調整中)	音楽堂アウトリーチ <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータル部門と協働し、主に小学校の教員を対象にする「先生のためのアウトリーチ」。県内各地にアーティストを派遣し、教員自身が生徒役となって体験するワークショップやモデル授業&ディスカッションを行うスタイルにより、音楽の授業計画や指導方法、教材、題材研究に役立ててもらう。年間5～6回実施する。



<p>5月18日（土） 7月6日（土） 令和7年 1月11日（土）</p>	<p>音楽堂</p>	<p>子どものための公開リハーサル</p>	<p>共催する神奈川フィルハーモニー管弦楽団の音楽堂定期演奏会開催にあわせ、同オーケストラとの連携により、音楽堂主催で公開リハーサルを実施し、子どもや青少年への音楽体験の提供を行う。</p>
<p>通年</p>	<p>音楽堂</p>	<p>音楽堂人材育成事業 ＜社会連携ポータル事業＞</p>	<p>社会連携ポータル部門と協働してインターシップを実施。音楽堂主催事業を題材にした現場実習を中心にした人材育成を行う。令和6年度の主たる題材は「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」を予定。</p>

## 2 施設運営・利用者サービス

「安全・快適な利用環境を守るーその先の安心へ」を施設運営・利用者サービスにおける重要な課題とし、「あらゆる人々に開かれた場」とあるという視点でハード面・ソフト面を改善していくことによって来館者も利用者も安心して過ごすことができる施設をつくる。

3館は共通して、各館の運営に関する専門的知識の共有や、社会連携ポータル部門との連携により、高いレベルを標準化していく。

管理運営に当たっては、時代に対応した新たな管理運営に取り組み、県の公立文化施設として相応しい良好な空調管理、保守管理の実施、そして清潔で快適な環境を常に提供することで、県民が安心して訪れることのできる施設環境を創出する。

また、利用者サービスの向上に持続的に取り組み、高いホール利用率を回復・維持させる。

### <施設維持管理における共通目標>

3館では、施設維持管理においても4つのミッションに基づき、以下に取り組む。

#### **創造に挑む**

県民の多くの方々が、芸術文化に触れ、また、芸術活動を行うことができるよう、鑑賞・創造環境の整備やその活動を支援する。

#### **感動を分かち合う**

自宅でも職場・学校でもない場所であり、常に身近にある「あらゆる人々に開かれた場所」としての文化施設の機能を創る。

#### **つねに考える**

アンケートや利用者の方々からの御意見、内部及び外部からの評価・検証を、会議等で議論し、共有を重ね、文化施設の果たす役割、効果などを常に考察し、次のアクションへ生かす。

県立の文化施設としてインクルーシブ社会の実現やSDGs等の社会課題の認識や課題の解決にも取り組む。

#### **未来につなぐ**

地域の拠点の文化施設として、社会連携ポータル部門と連携し、インターンシップ受入れ、県内文化施設職員向け研修会の実施などにより社会と芸術文化をつなぐ担い手を育成する。

適切な施設保全、高い利用率の保持、多様なラインアップの提供によって、世代を越えて、県民の方々に長く愛される施設づくりに取り組む。

## (1) 県民ホール

### ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

首都圏有数の客席数を持つ大型文化施設として、どのような催しにも対応できるよう、また、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、あらゆる人々が芸術文化に親しみ、様々な芸術文化活動に携われる、魅力的で快適な場となるよう、安定したサービスと技術的サポートを提供する。

大ホールではポップス、演歌、乳幼児向け公演、小ホール・ギャラリーでは県民の文化活動の発表の場として各種コンクール、ピアノ・合唱発表会、絵画・写真展覧会などジャンルを限定せず幅広く利用に供する。また、吹奏楽コンクール、神奈川県美術展をはじめとした美術展など、幅広い年齢層の県民の文化活動発表の場として提供する。

大ホールの規模の大きさと舞台機構を国内外の利用者・関係芸術団体に周知し、県民の鑑賞ニーズの高い公演、海外の一流オペラやバレエ公演、全国規模の学術会議等の誘致に努め、特例利用制度等を活用して利用促進を図る。

自主事業と貸館事業の適切なバランスを図り、新型コロナウイルス感染症拡大前の稼働率に回復させることで、利用料収入の確保を目指す。

神奈川県内文化施設の施設利用担当者を対象とする、専門性の高い人材育成講座を実施し、県内文化施設全体のレベルアップ、県民利用のサービス向上に寄与する。

周辺施設の需要の変化に対応しながら、日々多くの県民が集う活気あるホール環境を維持する。

窓口案内、会場案内、舞台技術、警備、中央監視、清掃等の各委託会社及びレストラン・喫茶と協力し、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。

県と連携をとりながら、老朽化した施設の適切な維持管理を行うとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザイン化など、県民サービスの観点から時代に即した施設整備を行っていく。

施設老朽化に伴う今後の県民ホールのあり方検討については神奈川県に対して積極的に協力を続けていく。

抽選会後の空き日は地元イベントなどに対し、積極的に営業活動を行い利用の促進を図る。

利用者の利便性を図るため前年度より開始した会議室のWEB予約については、利用者にも特に大きな混乱なく理解をいただき実施を開始しているため、引き続き安定した運用を継続して行う。

法令を遵守し、全ての利用者に公平公正で安全第一かつ安心感を提供できる運営を行う。

令和7年1月17日、開館から50周年を迎えるにあたり、文化事業と呼応し、施設運営として、バナーなどの設置や、記念ロゴマークの作成と催し物宣材等への活用依頼など、利用者の方々、来館者の方々に様々な形で50周年をともに祝っていただく機運を高め、休館までに県民ホールの存在価値を高め、休館後も県民に深く記憶していただく取り組みを行う。

イ 県民ホールの施設を活用する事業 収2

公益目的の利用（音楽・舞踊公演、展覧会など）が見込まれない場合は、学術会議、講演会、研修会、式典などの利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

ウ 駐車場の運営 収1

駐車場の運営を的確に実施し、収入確保を目指す。

## (2) 芸術劇場

### ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

開館から13年がたち、ミュージカルのロングラン公演の会場として、多彩な演劇公演が上演される劇場として横浜に定着してきた。認知度の向上とともに比較的長期の利用が安定的に入るようになってきていることから、引き続き専門劇場として運営・技術サービスを安定的に提供していく。

会場案内、舞台技術、警備等の各委託会社と協力し、館全体で、劇場の安全と危機管理体制を整え、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。

電子部品等の更新時期を迎えていることから、県と連携をとりながら適切な更新工事等を実施していく。

外国人・障がい者等の来館者対応として、鑑賞サポートの充実、ホームページの改善、職員研修などを順次計画的にハードとソフトの両面から進めていく。

ホール特定貸館として、以下の公演を実施する。

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
令和6年 4月23日(火) ～8月11日(日祝)	ホール	劇団四季ミュージカル 「オペラ座の怪人」 (全104回公演予定)	神奈川県に拠点を置く劇団四季は、平成29年「オペラ座の怪人」、平成30年「ノートルダムの鐘」、令和元年「パリのアメリカ人」、令和2年「マンマ・ミーア!」、令和4年「ノートルダムの鐘」令和5年「クレイジー・フォー・ユー」とこれまで6演目のロングラン貸館公演を実施し、延べ55万人を動員してきた。令和6年は、劇団四季の中でも圧倒的な人気と動員を誇るミュージカル「オペラ座の怪人」が、7年ぶりに再び神奈川芸術劇場に戻ってくる。引き続き県民に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する。 主催：神奈川県、横浜市、(公財)神奈川芸術文化財団、四季株式会社

### イ 芸術劇場の施設を活用する事業 収2

公益目的の利用（演劇・舞踊公演など）が見込まれない場合は、学術会議あるいは講演会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当するが、現状では稼働率も高く、ほとんど利用実績はない。

### ウ 駐車場の運営 収1

駐車場の運営を的確に実施し、収入確保を目指す。

### (3) 音楽堂

#### ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

本年11月に音楽堂は開館70年を迎える。平成30年から31年にかけて実施された大規模改修では空調設備等が一新されたが、舞台設備や客席等老朽化が著しい箇所も多々あり、職員の運用能力向上を図りつつ、施設の定期点検・保守を継続する。また設置者が定める長期修繕計画の課題洗い出しや見直しを働きかけていく。

日本でも最も歴史ある公共音楽専門ホールとしての存在価値を周知し、その保存、運用について広くご理解いただく一助として、音楽堂へのオンライン小口寄付を開始し、施設長寿命化のための補修費用に充当する。建造物としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安心・安全な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。

利用対応については、利用者が安心感を持って利用できるよう親切丁寧な対応、社会情勢等の変化にも柔軟に運用できる体制を整え、安心・安全な施設運営を第一に考え、利用者・来館者の満足度向上を図る。

定期的開催し、人気を博している建築見学ツアーについては、引き続きボランティアグループbridgeと連携し定期的実施する。あらゆる方々に参加していただく見学ツアーを社会連携ポータル課との協働で引き続き継続し、ブラッシュアップを図る。

近隣の横浜能楽堂が長期修繕期間に入り令和8年まで休館するが、能楽堂も含めた県立図書館、青少年センター、横浜市民ギャラリーと紅葉ヶ丘地区活性化のため、5館連携事業「まいらん」を引き続き促進させる。

#### イ 音楽堂の施設を活用する事業 収2

公益目的の利用（音楽公演等）が見込まれない場合は、講演会や研修会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

### 3 本部事業、その他事業

#### (1) 社会連携ポータル部門 公1

##### ア 社会連携ポータル事業（3館共通事業）

①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）  
③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）の4つの柱を中心に、3館の特性を生かしながら、社会と芸術をつなぐ窓口として機能していく事業を展開していく。

#### ■ミッション「感動を分かち合う」

#### ○多くの方々と感動を分かち合うための「インクルーシブアプローチ」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
通年	県民ホール 芸術劇場 音楽堂 県内施設	鑑賞サポート	障がいやさまざまな要因により文化芸術の鑑賞・参加に障壁がある方々が舞台芸術や美術を楽しむためのサポートを行うインクルーシブアプローチ。聴覚障がいの方に向けた文字による情報保障、視覚障がいの方に向けた音声や点字、やさしい日本語の活用などの情報保障としての鑑賞サポートや、児童、生徒に向けた招待などさまざまな形でのアプローチを実施していく。3館において4～5公演を対象とする。

#### ○多くの方々と芸術文化でつながる「地域との連携」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
通年	県内施設	県内巡回公演	県民ホール、芸術劇場が制作した公演を県内の文化施設で実施する。地域の文化施設とのネットワークを強化し、県内の多くの方に公演を鑑賞してもらうことをめざす。鑑賞サポートへの取組の紹介なども同時に行っていく。

■ ミッション「未来につなぐ」

○ 芸術文化を担う人材を育てる「専門人材育成プログラム」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
調整中	県民ホール 芸術劇場 音楽堂	インターンシップ	県民ホール・芸術劇場・音楽堂において、各館の特性をいかしたプログラムにより、就業体験の場を提供し、これからの舞台芸術を担う人材を育成することをめざす。
調整中	県民ホール 芸術劇場	人材育成講座	すでに舞台芸術や文化施設運營業務についている人向けに、ブラッシュアップのための講座を開催。県民ホールは、劇場運営従事者のための、芸術劇場は、舞台技術の講座を実施する。
調整中	県民ホール 芸術劇場	大学連携事業	大学や研究者と文化施設が協働し、文化施設が教育の場所となっていく取組みを継続して行う。
通年	芸術劇場	リラクスパフォーマンスを考える	令和5年度から3年計画の2年目。リラクスパフォーマンス（またはインクルーシブシアターともいう）の作品制作を目標とし、その2年目として、研究、アーティストと協働するための準備を行う場を設け、創作のあり方を検討する。

○ 子どもたちと芸術文化をつなぐ「学校教育へのアプローチ」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
調整中	芸術劇場 音楽堂	学校教育へのアプローチ	芸術劇場は、県立高校の舞台芸術専門科の教育課程である実務研修や視察等を実施する。 音楽堂は、県内の主に小学校の教員を対象とし、教科指導に役立つアウトリーチプログラムを実施する。



## ■共生共創事業（県からの受託事業）

（県の事業者募集に応募すると想定して、今後調整を進めていく。）

事業名（予定）	内容
共生共創事業	<p>県の重点施策である「共生社会の実現」「未病」などの取組とマグネット・カルチャー（マグカル）をクロスさせた舞台芸術関連の事業。</p> <p>県域の文化振興に関するネットワークの形成についても、本事業に関連して進めていく。（7年目。平成30年度から開始の事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア劇団3箇所 通年実施（横須賀、綾瀬、小田原）</li> <li>・シニアダンスワークショップ1箇所 通年実施（横浜を主体に県内各地）</li> <li>・インクルーシブ事業（4件程度）</li> <li>・その他広報業務等</li> </ul> <p>※神奈川県の実業説明文</p> <p>事業理念</p> <p>神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。</p>

## (2) 地域の芸術文化財団への業務協力 公1

公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団は、令和4年から鎌倉市より鎌倉芸術館の指定管理者の指定を受けるにあたり、当財団に対して業務協力の依頼を行った。当財団は、この依頼を受けて、令和4年4月から、鎌倉芸術館に対する管理運営協力として、①管理運営における人員出向等の協力、②主催公演における企画制作作品の提供等を開始したところである。

地域で活動する財団との業務協力は、地域における芸術文化の振興の一助となることから、第3年度目にあたる令和6年度も、引き続き鎌倉芸術館に対する管理運営協力を行っていく。

なお、業務協力の期間は、令和4年度から5年間を1期として、最大2期までを予定している。

## (3) 芸術文化に関する情報の収集提供 公1

当財団の主催事業のみならず、広く県内外で実施された芸術文化や文化施設の取組等を紹介することで、県民に芸術文化への理解をより深めて親しみを感じてもらう情報誌として「神奈川芸術プレス」を年2回（9月、3月（予定））発行する。

公演・催物に関わるだけでなく、文化と社会の架け橋になるような特集テーマを設定し、人材育成、社会連携の取組など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある記事を掲載していく。また読者アンケートを通して県民のニーズを盛り込めるよう取り組んでいく。冊子と同内容のウェブ版も引き続き運営し、冊子を手にとれない読者にも幅広く読んでもらえるよう認知度の向上に努める。

## (4) かながわメンバーズの運営 公1

会費無料のインターネット会員制度「かながわメンバーズ（愛称KAme:カメ）」を運営し、メールマガジンによる公演案内やチケット発売情報の配信、会員先行チケット予約などのサービスを提供する。併せてチケット購買データを分析することで、会員ニーズに合わせた効率的かつ戦略的な情報提供とチケット販売促進を図る。

また、会員情報を適切に管理し、情報の安全性を確保し、効率的な運営を行う。

## (5) チケットかながわの運営及び団体販売等の促進 公1

主催事業の票券管理補助やチケット販売、また、共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。チケット購入者におけるインターネット予約システムの利用者が高い状況を受けて、チケット予約システムにおける案内及びチケットかながわのホームページの内容を必要に応じて分かりやすいものに改善するとともに、高齢者などインターネットでの購入を望まない利用者に対して

は電話・窓口で丁寧な対応を行うなど、利用者それぞれの状況を理解し寄り添ったサービスを提供し、利用者満足度を向上させる。

また、令和4年度の試用を経て令和5年度に開始した電子チケットについては対象公演を順次拡大していくため、チケット販売委託者へ電子チケット取扱いについての情報提供等を行い、チケット購入者へのサービス向上に繋げていく。

チケットの団体販売については、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。

## (6) 資金調達活動 公1

### ア 文化庁等からの補助金・助成金の確保

文化事業、広報活動及び人材育成等の充実を図るため、文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」等の補助金、一般財団法人地域創造をはじめとした民間の助成財団等からの助成金の確保に積極的に努める。また、独立行政法人日本芸術文化振興会の調査・意見交換等を通して、文化事業の水準向上に繋げるとともに、同様に助成を受けている他劇場や関係機関等との連携を強化し、制度に関する情報収集を行っていく。

### イ 賛助会員制度の運営及び各種寄付金の獲得

現賛助会員に継続してご支援いただけるよう特典やあり方を検討するとともに、新規の会員獲得のため、法人、個人への働きかけも積極的に行う。来館者、一般の方々の賛助会員制度への認知・理解を深めるため、主催公演における募集チラシの折り込みやWebサイトの充実等の方策を実施する。

オンライン寄付サービスを促進し、3館施設毎の寄付の窓口を設定することで寄付の用途をより明確にし、寄付者数の拡大を図る。

寄付を受けた事業のレポートをHPに掲載するなど丁寧かつ積極的な情報発信を行い、また寄付者向けイベントの実施等、劇場と寄付者の関係を深める取組みによって継続した支援の獲得を目指す。

その他特定の公演や事業に対して支援をいただく個別協賛金の働きかけ、遺贈寄付のより積極的な広報に努め、幅広い支援をいただけるよう、働きかけていく。

## (7) 管理組合の運營業務受託 収2

芸術劇場及び日本放送協会横浜放送会館合同施設全体の防災管理業務並びに共用部の敷地・建物の清掃、保全、保守、修繕、植栽、じん芥処理及び消毒業務等の施設維持管理業務を受託する。

合同施設アトリウム・レストラン・カフェの利用調整業務を行う。

## (8) 法人本部の運営

### ア 法人本部の運営 法人

理事会・評議員会等の運営、職員の資質向上のための研修の実施、事業評価の実施、そ

の他公益法人の運営に関すること（総務、人事、会計、県との調整等）を行う。特に昨今重要視されている個人情報保護やコンプライアンスに係る従事者への啓もうをより積極的に行い、4年目となる第4期指定管理業務を、引き続き効果的、効率的に進めていく。

イ 寄付講座の実施 公1

財団本部の事業として、昭和音楽大学大学院の授業「音楽マネジメント特殊講義VI」に出講（寄付講座として受託）し、当財団職員が劇場運営や事業等について分担して講義を行う。（計15コマ予定）